

## 自衛隊員が子どもに笑顔をお届ける カブトムシなどを保育園に寄贈

7月3日、陸上自衛隊えびの駐屯地の隊員でつくる曹友会（犬童淳是会長）が朝日保育園の園児26人に休日などに捕獲したカブトムシやクワガタ、メダカを寄贈しました。活動は、子どもたちに笑顔をお届けたい想いで、令和2年から実施。園児たちは初めて見るカブトムシやクワガタに少し怖がりながらも笑顔が溢れていました。



坂下エ子園長は「本物のカブトムシなどを初めて見る子どもたちはとても喜んでいる。この活動を通して、命の大切さを知ってほしい」と話しました

## 県内外からメダカ愛好家が集まる 「ニシモロメダカフェス」開催

6月29日、市内外から20を超えるメダカ店舗が集まる、「ニシモロメダカフェス」がのじりこびあで開かれました。イベントでは、メダカすくい大会や自慢のメダカオークションといったメダカに関する催しをはじめ、西諸地域の食が楽しめるフードマルシェなどが開催され、会場には県内外から多くのメダカ愛好家たちが集まりました。



鹿児島県から来場した山下俊文さんは「メダカ関連のイベントは貴重なので近隣の県でも行く。見たことないメダカに出会えてうれしい」と話しました

## 市内学校や関係機関の連携強める 第1回小林教育みらい創造会議

6月26日、文化会館で「第1回小林教育みらい創造会議」が行われ、市内の高校や専門学校、南九州大学などが参加しました。会議は各学校が連携し合って、児童生徒の社会的な自立や持続可能な担い手づくりの推進を目的として実施。各学校の特色をプレゼンし、今後の具体的な連携・協力の在り方について情報を共有しました。



大山和彦教育長は「会議を通じて、各学校や関係機関がそれぞれの強みを活かした具体的な連携につながる第一歩となってほしい」と呼びかけました

## 小林看護医療専門学校の2年生が 看護師への誓いを心に灯す

6月20日、小林看護医療専門学校の2年生26人が「誓いの式」に臨みました。式は、病院実習など学習が本格化する前に医療職・看護職を志す者としての誇りと自覚を誓い決意を新たにします。学生は保護者や病院関係者などが見守る中、ナイチンゲール像から継承した灯火を手に、自分たちで考えた言葉を真剣な表情で宣誓しました。



学生たちは声を揃えて「患者さんを第一に考え、相手の気持ちや表情をくみ取って発言や行動ができるように努めます」と力強く誓いました

## 誰もが孤独にならない環境づくりで 犯罪や非行のない社会を目指す

7月1日、「第75回社会を明るくする運動」内閣総理大臣メッセージ伝達式が開かれました。同運動は7月を強化月間として全国で展開しているもの。小林地区保護司会の川畑静子会長は「罪を犯した人の更生を信じて待ち、諦めずに寄り添い続けることができる社会づくりを進めることが安全で安心な社会の実現につながる」と話しました。



これは、国内で検挙された人の約半数を過去に罪を犯した人が占めている現状があることから、その立ち直りを地域で支えようという取り組みです

## 自立支援型介護予防を進める 県内初事業に13事業所が参加

6月30日、市が行う県内初の事業に参加する事業者に登録証を交付しました。市が新たに取り組むのは、市が指定した、介護サービスを受ける利用者の分析などに用いるシートを使用する事業所を支援する「自立支援型ケアマネジメント促進事業」と介護サービス利用者の生活機能が向上した事業者を報奨する「QOL（生活の質）向上事業」の2つです。



2つの自立支援型介護予防の取り組みに参加するのは市内計13の事業所。当日は、介護予防への思いや意義などについての意見交換会も行われました

## 小林中学校卒業生が母校に寄付

5月21日、小林中学校卒業生の昭和42年度卒業同窓会と昭和55年度卒業同窓会が母校を訪れ、肝付正籍校長に寄付金を手渡しました。寄付は今後の教育活動に活用されます。



## 地婦連が市長と教育長に花束を贈呈

小林市地域婦人連絡協議会（上原裕子会長）が6月12日に教育長を、26日には市長を訪れ、父の日訪問として日ごろの感謝を込めた花束を贈りました。県地域婦人連絡協議会が知事に花束を贈呈したことをきっかけに本市でも平成14年から続く取り組みです。



## 秀峰高校ローイング愛好会が発足 小野湖でローイングを初体験！

小林秀峰高校では、1年の男子生徒6人によるローイング愛好会が発足しました。同愛好会は週3日、室内練習で活動。6月21日、22日には令和9年国スポ競技会場の小野湖（須木地区）で初めてローイングを体験しました。当日はローイング経験者を指導者として招き、2班に分かれて約2時間オールを使い方を学んでいました。



主将を務める金崎蒼さん（1年生）は「最初は難しかったけど、慣れてきたら楽しかった。1年生大会は全力でやり切りたい」と意気込んでいました

## 選挙をもっと身近に感じてほしい 市内高校生が選挙事務を体験

7月、第27回参議院議員通常選挙に向けて、市内3高校の生徒21人が期日前投票などの手伝いを行いました。将来、選挙権を手にする高校生が選挙を身近に感じ、投票所に足を運びきっかけになってほしいと市選挙管理委員会が企画したものです。高校生は受け付けや投票用紙交付などの投票事務の体験を通して選挙への理解を深めました。



同委員会では、選挙啓発活動として市役所や市内スーパーでチラシやポケットティッシュなどを配布。近年低迷している投票率向上に向けて取り組んだ

## 東方小学校の児童と保護者が 河川の大切さを楽しみながら学ぶ

7月12日、東方小学校児童とその保護者約40人が三之宮峡周辺の河川清掃活動やウナギの稚魚放流、魚のつかみ取り大会を行いました。この活動は、河川環境の保全や再生を考えてもらうために、同校PTAが小林高原野尻漁業協同組合と協力して実施。児童らは魚のつかみ取りを楽しみながら、身近にある河川への関心を高めました。



東方小は「持続可能なみやざきづくりを実現する環境教育推進校」の指定校。今回の活動は、SDGsの推進に関する取り組みの中で目玉の一つです

## 無病息災や五穀豊穰を祈る 野尻小で「東麓六月灯まつり」

7月19日、野尻小学校で「東麓六月灯まつり」が開催されました。六月灯は旧薩摩藩領に伝わる無病息災や五穀豊穰を祈る夏祭り。神事後、地元保育園児による子どもみこしで祭りはスタート。歌や踊りなどのステージイベントで盛り上がったほか、野尻町東麓出身の江戸太神楽師仙若さんによる曲芸の披露などが行われました。



六月灯は無病息災や五穀豊穰を祈る祭り。主催者の野尻小学校区まちづくり協議会の大畑孝彦会長は「伝統ある祭りを後世に引き継ぎたい」と話しました

## SUP・カヤック体験を通して 須木小児童が小野湖の大自然を満喫

7月14日、宮崎国スポ・障スポでカヌーとローイングの競技会場にもなっている須木地区の小野湖で、須木小児童がSUP※とカヤックを体験しました。3～6年生の児童21人は4班に別れて交代で体験を行い、全身で小野湖の大自然を満喫。5年生の小園八華葉さんは「カヤックはコツを掴むと速く進めて楽しかった」と話していました。



※スタンド・アップ・パドルボード (Stand Up Paddleboard) の略で、ボードに立ち、パドルを使って水面を漕いで進むウォータースポーツのこと

## 小林西高校「三ツ星レストラン」 磨き上げた料理の腕で振る舞う

7月10日、小林西高3年生を中心に料理を振る舞う「三ツ星レストラン」のプレオープンが同校でありました。生徒は朝8時から仕込みを始め、「豚の角煮」や「天ぷら」、「鶏の酒蒸し」など15品を完成。昨年まではコース料理で提供していましたが、今年は趣向を変え、松花堂弁当として教員や出身中学の校長などに振る舞いました。



北方朋季さん(3年生)は「たくさん人に食べてもらえてうれしかった。料理は失敗もあるけど楽しい、今後も技術を伸ばしていきたい」と話しました

## デフリンピックキャラバンカーでPR

6月27日に県聴覚障害者協会が東京2025デフリンピックの周知広報を目的としてキャラバンカーで来庁し、市長を表敬訪問しました。デフリンピックは、「耳が聞こえない・聞こえにくい人のためのオリンピック」で、4年ごとに開催されます。



## 人権擁護委員2人が表彰状を受彰

5月22日、県人権擁護委員連合会総会でわかまつてるお若松照雄さん(写真左)が全国人権擁護委員連合会会長表彰状、佐藤宗一さんが宮崎地方法務局長表彰状を受彰しました。これは、長年尽力した人権相談活動や人権尊重思想の啓発活動が認められたものです。



## お笑い芸人チキンナンゴーに学ぶ メディアとの上手な付き合い方

7月4日、東方小学校でメディアとの上手な付き合い方を学ぶ授業が行われました。講師に招かれたのは、お笑い芸人「チキンナンゴー」の2人で、スマートフォンなどを長時間使うことで起きる悪い影響などについて紹介。2人の漫才や手作りのイラストを交えながら行う授業に、子どもたちは笑顔でメディアとの付き合い方を学んでいました。



2人は「宿題が終わったらスマホを見てもよいと決めるだけではなく、何ページやったら何分間使えるなど、親と細かく話し合うことが大事」と話しました

## 市内小中学校の未来を考える 学校の在り方に関する意見交換会

7月9日、市教育委員会が須木総合ふさとセンターで「学校の在り方に関する意見交換会」を開催しました。今年2月に市教育みらい検討委員会から出された、市内小中学校の在り方に関する提言書を受けて、保護者や地域住民の意見を集めるために開催したもの。当日は25人が参加し、学校の未来について意見を交わしました。



意見交換会は7月から8月に開催する前半の部と10月から11月にかけて開催予定の後半の部に分けて、各小学校区ごとに開催しています